

「自由・自立の精神」を堅持するために

- 教育学を中心とした多様な学識を知の基盤とし、統合させるとともに、課題に対する柔軟な思考と深い洞察力に基づき、継続的に自己を評価・検証しつつ主体的に行動する能力を涵養する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

- 研究者教員と実務家教員の協同的指導のもと、学校教育に関する高度な専門的知識と教育実践との往還を通して、実践の評価・検証を行うことにより、より高度な実践的指導力を涵養する。
- 自らの実践にとどまらず、学校や地域のリーダーとして主体的に指導実践を展開する能力とその自覚を涵養する。

「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

- 教師としての資質向上を目指す「共通科目」、専門性を高める「分野別科目」、「現代的教育課題科目」の履修を通して、個々の学生のもつ教育課題を多面的、総合的に分析し、その実態に即した指導実践を展開する能力を涵養する。
- 同時に、教員集団、保護者、地域社会との連携、協力を円滑に進めるために、グループ討議や発表会等を通してコミュニケーションやプレゼンテーションの能力を高める学修機会を提供する。

「高い問題解決能力」を育成するために

- 「現代的教育課題科目」の履修を中心に、多様な現代的教育課題に対して、教育学的、学校教育臨床的な視座による理解を深め、対応する能力を涵養する。

「学修成果の厳格な評価」のために

- 学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。
- 講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- 実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。